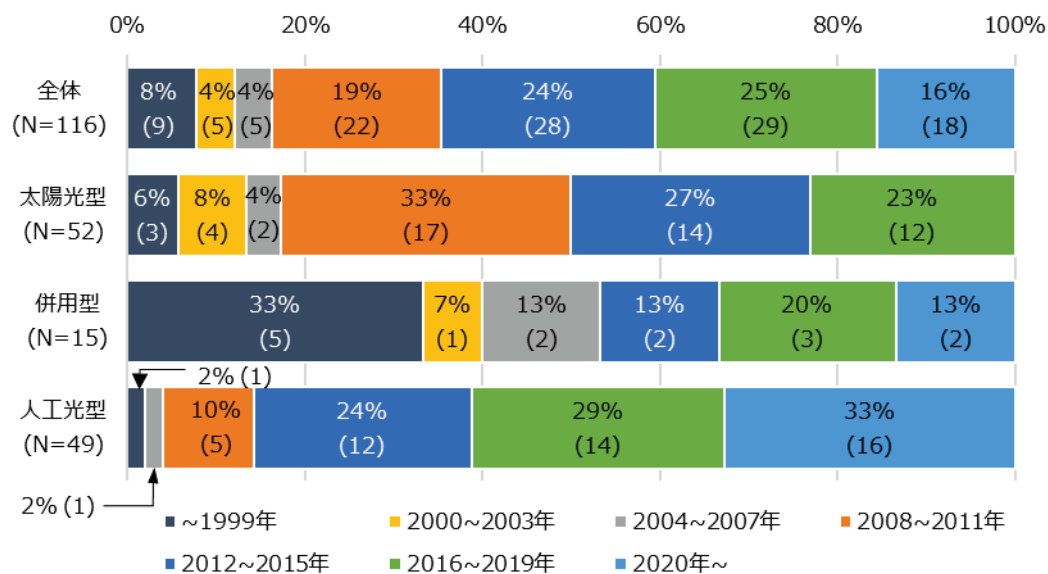


③ 栽培開始年

栽培開始年は、全体では2016年以降が41%を占めている。さらに2012～2015年が24%となっており、近年の参入者の増加がうかがえる。

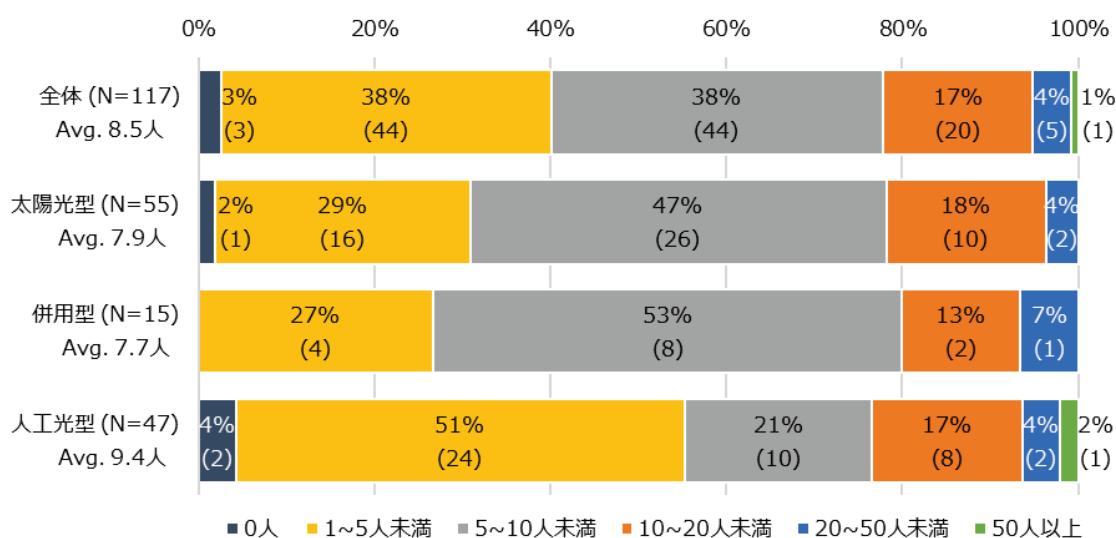
栽培形態別にみると、太陽光型では2016年以降が23%、2012～2015年が27%であり、約半数が2012年以降に栽培を開始している。また、人工光型では、2012～2015年の栽培開始が24%、2016年以降が62%と、9割弱が2012年以降の栽培開始となっている。なお、人工光型では、2016年以降計62%のうち、33%が2020年以降に栽培を開始している。



図表 31 栽培開始年

④ 雇用者数

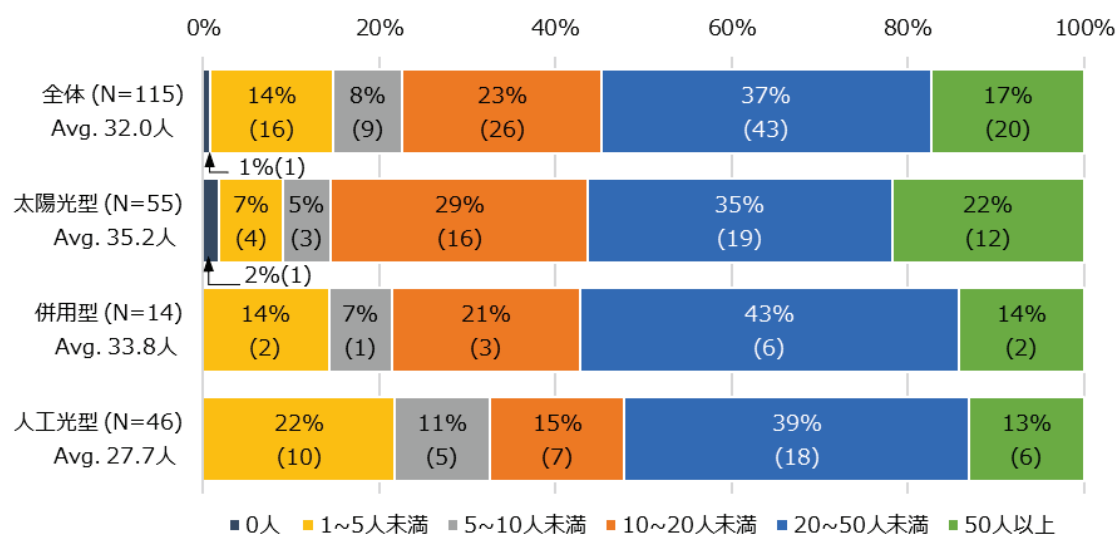
施設における平均雇用者数²をみると、通年（正規）の雇用者は、全体では 1～5 人未満と 5～10 人未満がそれぞれ 38%と最も多い。栽培形態別にみると、人工光型、太陽光型、併用型の順に正規雇用者が多い傾向にあり、施設当たり正規雇用者数の平均はそれぞれ 9.4 人、7.9 人、7.7 人であった。なお、人工光型については、昨年度の平均正規雇用者数 8.0 人から 9.4 人に増加している。



図表 32 雇用者数（通年：正規）

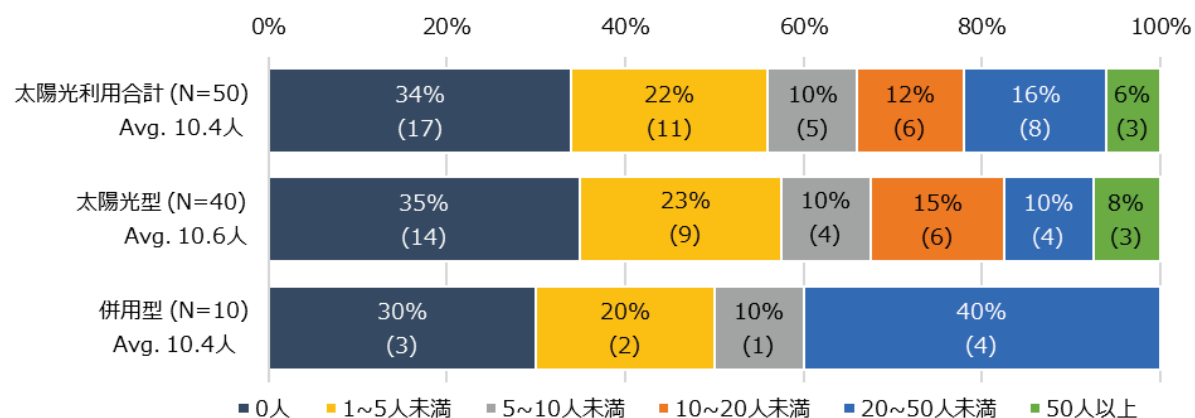
² 正規雇用の従業員は、「通年：正規」とし、非正規雇用のうち定常的に勤務している従業員は、「通年：非正規・パート」とした。また、非正規雇用のうち収穫期間など、繁忙期に臨時で勤務する従業員は、「期間雇用」と表記して、3つに分類して調査・集計を行っている。

非正規・パートの通年雇用者は、全体では 20～50 人未満が 37%と最も多い。施設当たりパート雇用者数の平均は、太陽光型で 35.2 人、併用型で 33.8 人、人工光型で 27.7 人である。具体的には太陽光型では、20～50 人未満が 35%、50 人以上が 22%、併用型では 20～50 人未満が 43%、50 人以上が 14%、そして人工光型では 20～50 人未満が 39%、50 人以上が 13%となっている。施設当たりパート雇用者数の平均は、太陽光型で昨年度 44.0 人から今年度 35.2 人、併用型で昨年度 46.3 人から今年度 33.8 人、人工光型で昨年度 28.3 人から今年度 27.7 人と、いずれも減少している。



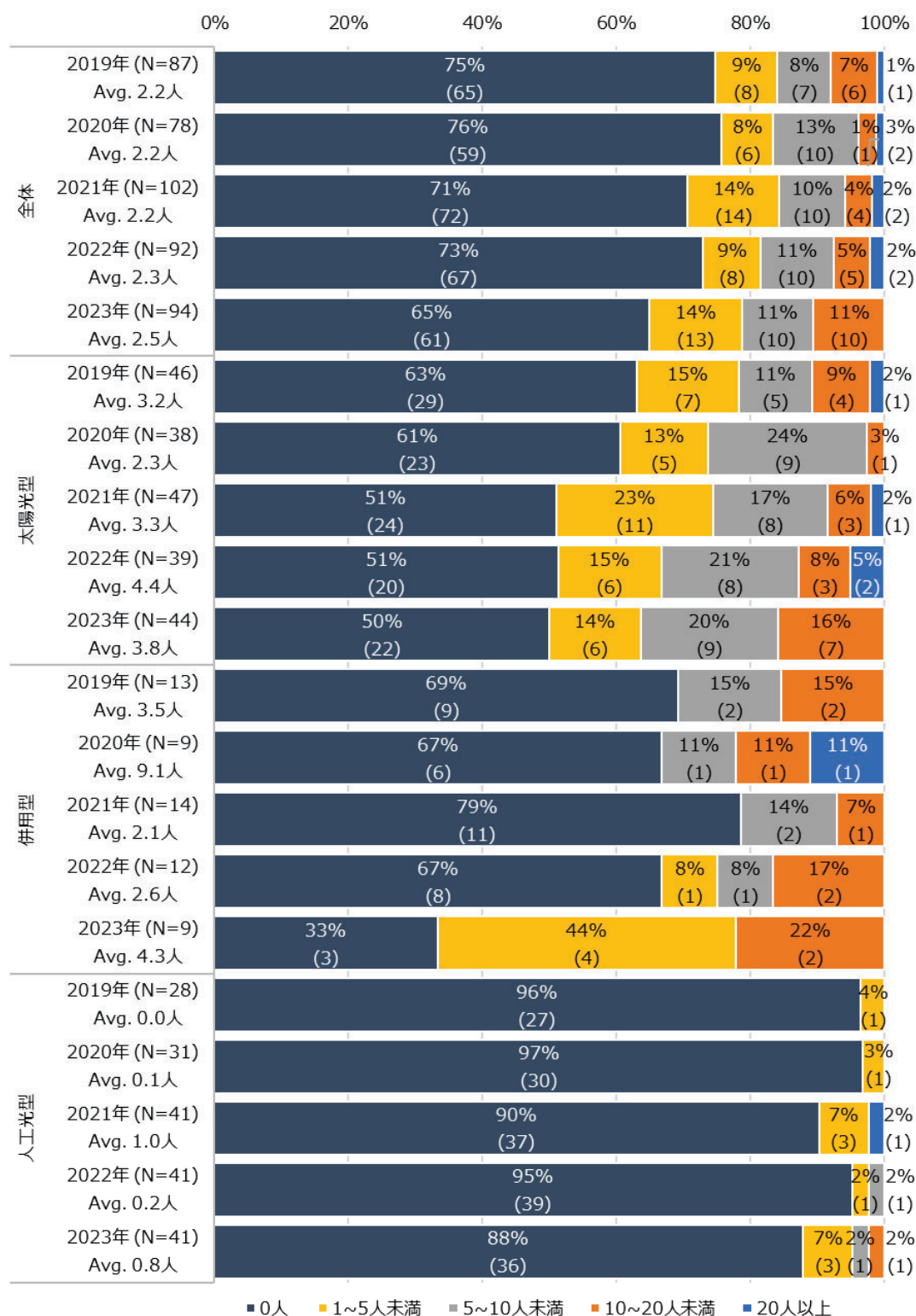
図表 33 雇用者数（通年：非正規・パート）

一方、期間雇用者数をみると、雇っていないという事業者を除き、太陽光利用合計（太陽光型・併用型）では1～5人未満が22%で最も多かった。栽培形態別に施設当たり期間雇用者数の平均をみると、太陽光型で10.6人、併用型で10.4人であった。



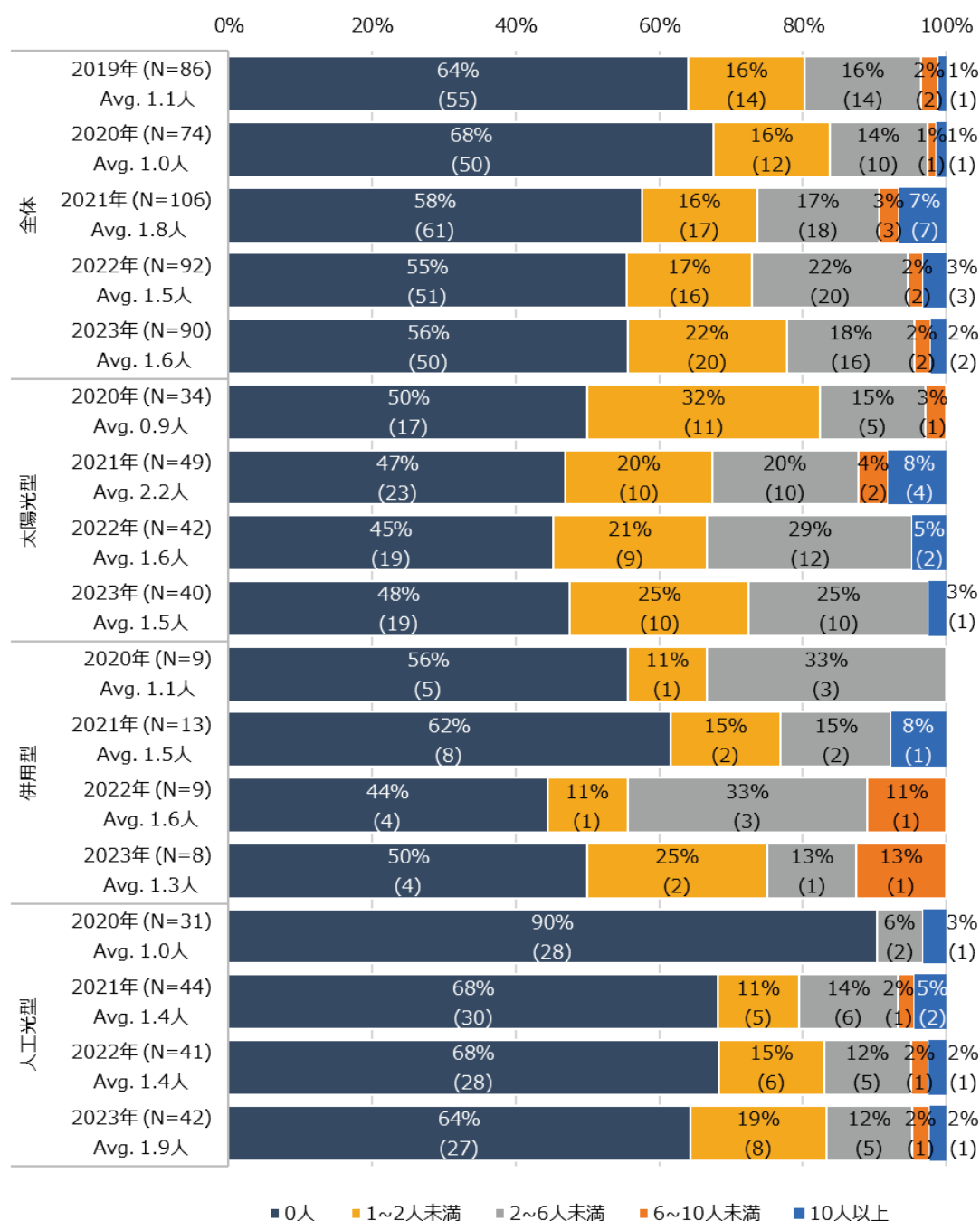
図表 34 期間雇用者数

外国人実習生を受け入れていると回答した事業者は全体で36%となっている。栽培形態別にみると、太陽光型、併用型での比率が大きく、それぞれ50%、66%で外国人実習生を受け入れている。また、年度別に比較したところ、全体として受け入れが年々増加傾向にあることがわかる。



図表 35 外国人実習生数

障害者雇用促進法では、従業員が一定規模以上の事業者は、一定割合の障害者雇用が義務付けられている³。障害者を雇用していると回答した事業者は全体で 44%となっている。栽培形態別にみると、太陽光型および併用型で障害者を雇用する事業者が 50%を超えている。なお、太陽光型および併用型では施設当たりの平均人数は減少しているが、人工光型では増えている。障害者を雇用している事業者の組織形態は、農地所有適格法人（46%）と株式会社（46%）が大半を占める。

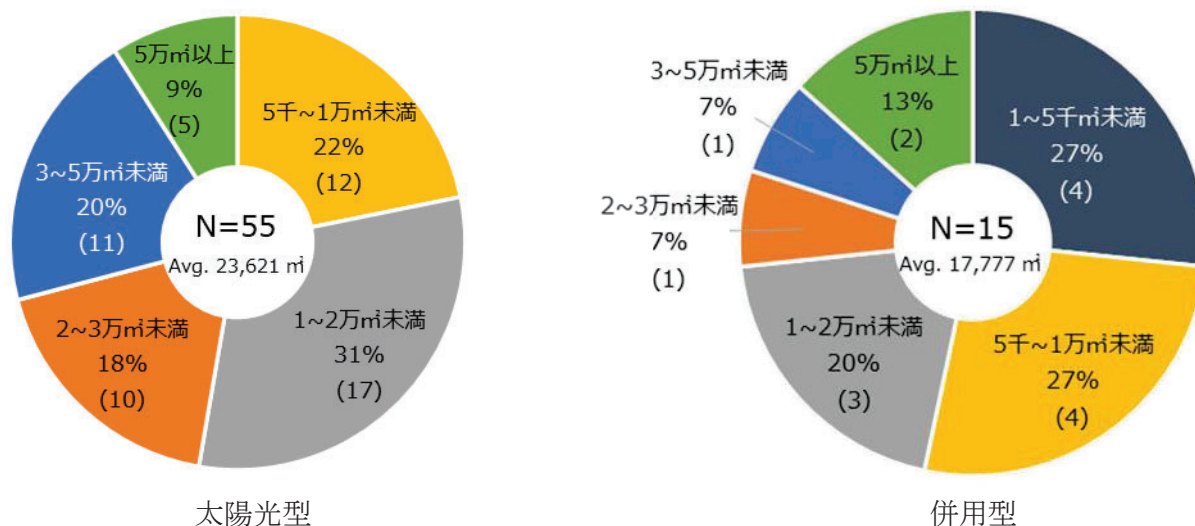


図表 36 障害者雇用者数

³ 障害者雇用促進法では、2018 年 4 月に対象となる民間事業主の範囲が、従来の従業員 50 人以上から 45.5 人以上、さらに 2021 年 3 月から従業員 43.5 人以上に拡大された。

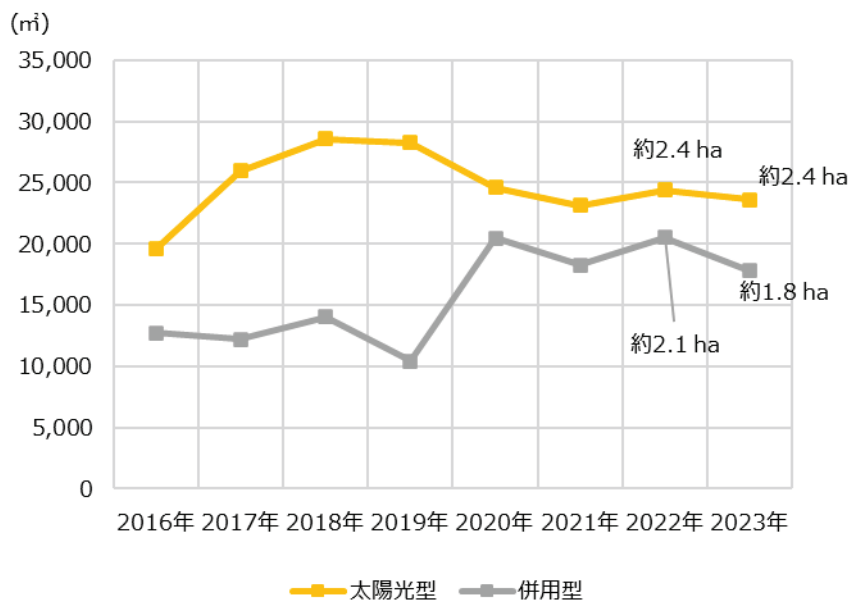
⑤ 栽培用施設面積・栽培実面積

太陽光型および併用型の栽培用施設面積の比率をみると、太陽光型では1～2万 m² 未満が31%を占め最も多い⁴。また、栽培用施設面積の平均は、太陽光型が約 2.4 ha、併用型は約 1.8 ha であった。



図表 37 栽培用施設面積（太陽光型・併用型）

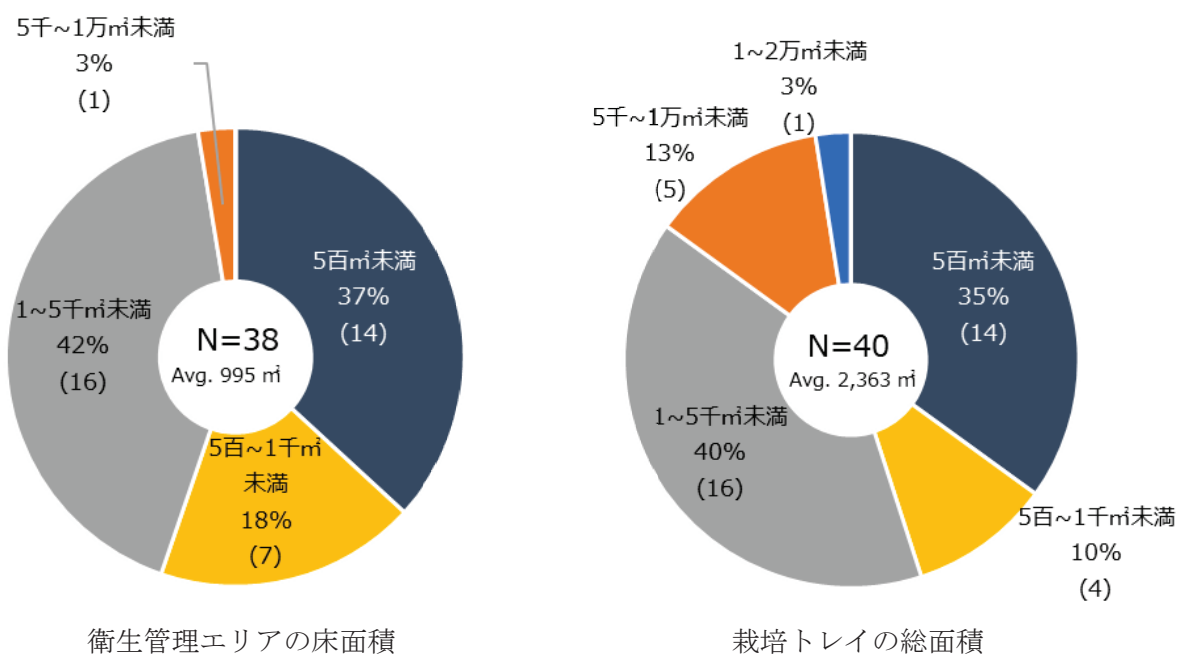
回答者の入れ替えがあるため、データの継続性はないものの、栽培用施設面積の平均値の推移をみると、昨年度と比べ太陽光型は横ばい、併用型は約 14%減少した。



図表 38 平均栽培用施設面積の推移（太陽光型・併用型）

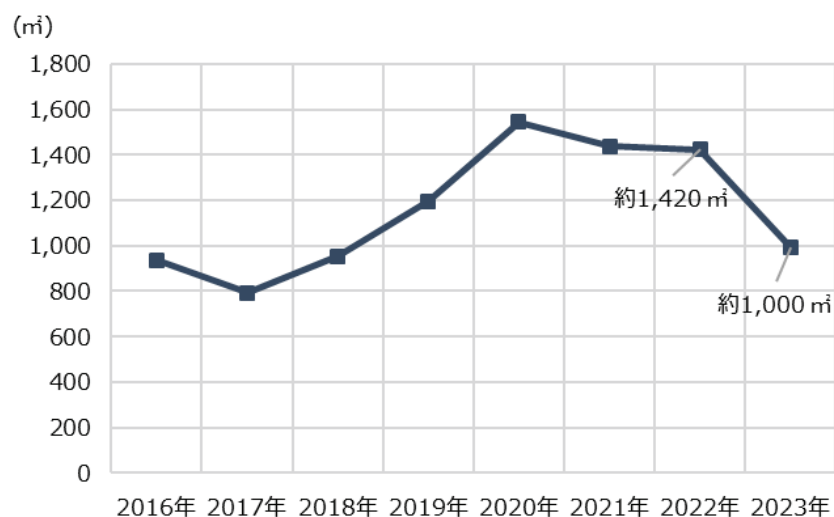
⁴ 太陽光型は調査対象をおおむね 10,000 m² 以上として調査しており、5,000 m² 未満の施設は本調査・分析の対象に含まれていない。

一方、人工光型の衛生管理エリアの床面積の比率については、1,000 m² 以上の施設の比率が 45%を占める。そのうち、5,000～1 万 m²未満の比率が 3%となっている。また、床面積の平均は約 1,000 m²であった。なお同面積は、事業所全体を対象としておらず、生産のための衛生管理エリアの床面積である。さらに、栽培トレイの総面積では、1,000～5,000 m² 未満が 40%と最も多く、5,000 m² 以上の施設が 16%あった。栽培トレイの平均面積は約 2,400 m²であった。



図表 39 衛生管理エリアの床面積および栽培トレイの総面積（人工光型）
 ＊事業所全体ではなく、生産のための衛生管理エリアの床面積、栽培トレイの総面積

さらに、データの継続性はないものの、人工光型における衛生管理エリアの床面積の平均値の推移をみると、2020年まで拡大傾向にあったが2021年以降3年連続で減少している。ただし、同数値は平均床面積のため、主に多段栽培を行う人工光型の栽培トレイの平均面積が減少しているとは限らない。



図表 40 衛生管理エリアの平均床面積の推移（人工光型）

人工光型の各施設の建物延床面積に占める衛生管理エリア床面積の割合は、人工光型全体の平均が0.7、さらに衛生管理エリアの床面積の大きさ別に見てみると、500㎡未満（0.6）、500～1,000㎡未満（0.6）、1,000～10,000㎡未満（0.7）と床面積の規模による大きな差異は見られない。

図表 41 建物延床面積に対する衛生管理エリアの床面積の割合（人工光型）

衛生管理エリアの床面積	施設数	平均割合
500 ㎡未満	12	0.6
500～1 千㎡未満	7	0.6
1 千～1 万㎡未満	17	0.7
合計	36	0.7

さらに、主に多段の栽培棚を用いる人工光型において、衛生管理エリアの床面積に対する栽培トレイの総面積の割合は、全体平均が 2.5、規模別では 1,000～10,000 m² 未満の規模の施設平均が最も大きく 2.7 であった。

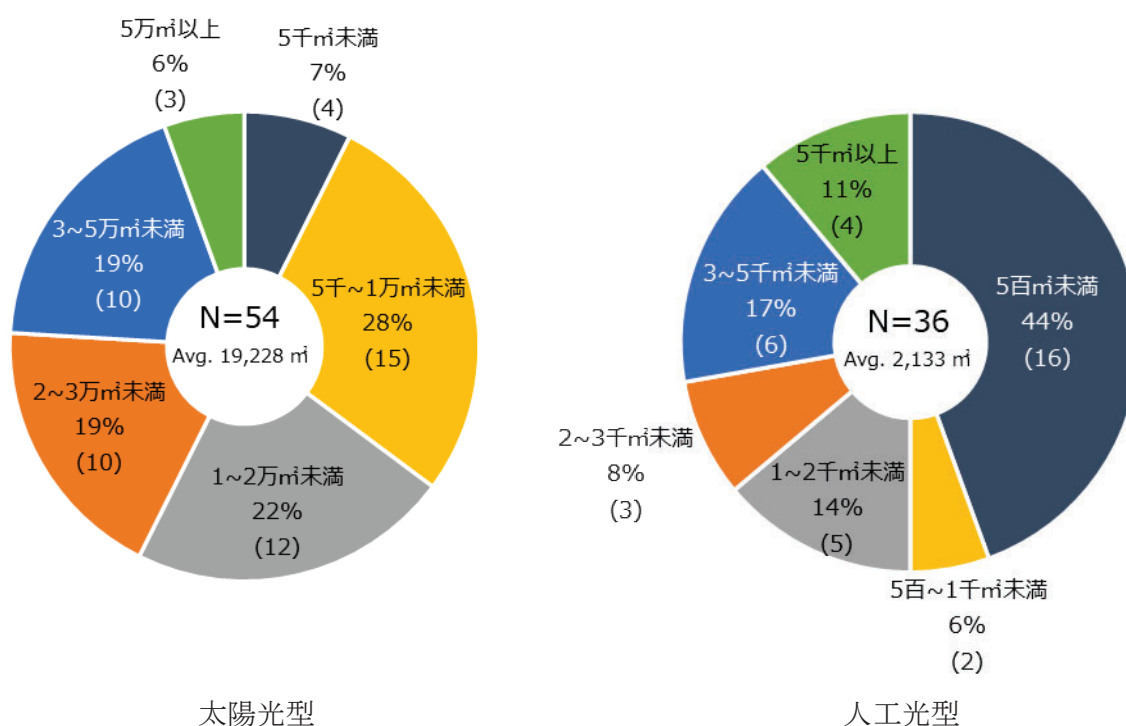
図表 42 衛生管理エリアの床面積に対する栽培トレイの総面積の割合（人工光型）

衛生管理エリアの床面積	施設数	平均割合
500 m ² 未満	13	2.4
500～1 千m ² 未満	6	2.1
1 千～1 万m ² 未満	16	2.7
合計	35	2.5

事業者によっては、複数の品目を栽培しているが、そのうち最も栽培実面積（実際に栽培している区画の合計面積）が大きい主要品目について、集計したものが下図である。なお、栽培実面積はその作物を栽培する場所の合計面積で、人工光型の場合は栽培トレイ面積を意味する。

栽培形態ごとの主要品目の栽培実面積の平均をとると、太陽光型が約 1.9 ha、人工光型は約 2,100 m²であった。

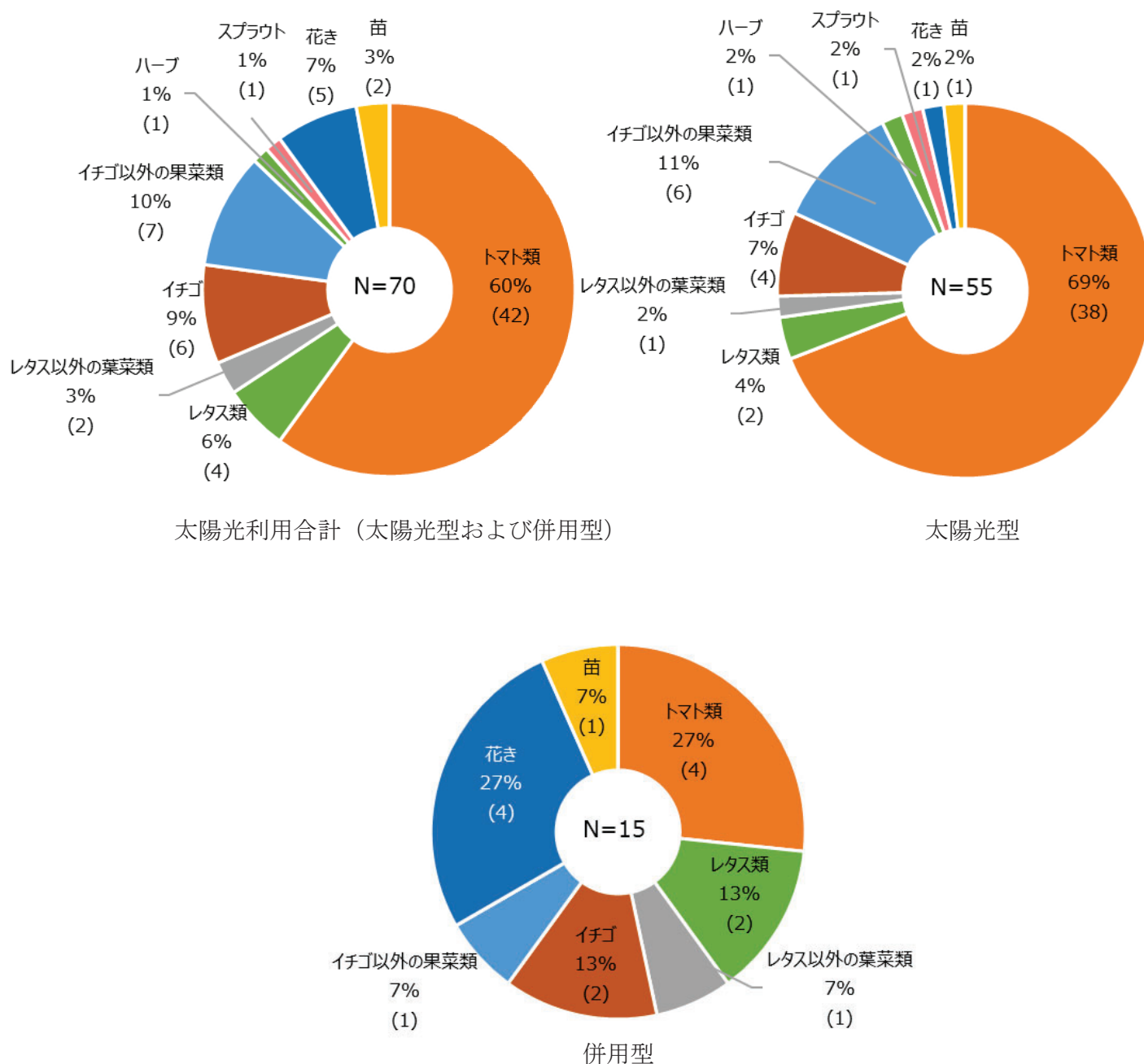
なお、太陽光型の栽培実面積は施設全体の面積より小さくなるが、人工光型の場合は多段式で栽培していることが多いため、栽培実面積（栽培トレイ面積）の平均は、衛生エリアの床面積の平均より大きい。



図表 43 主要品目における栽培実面積

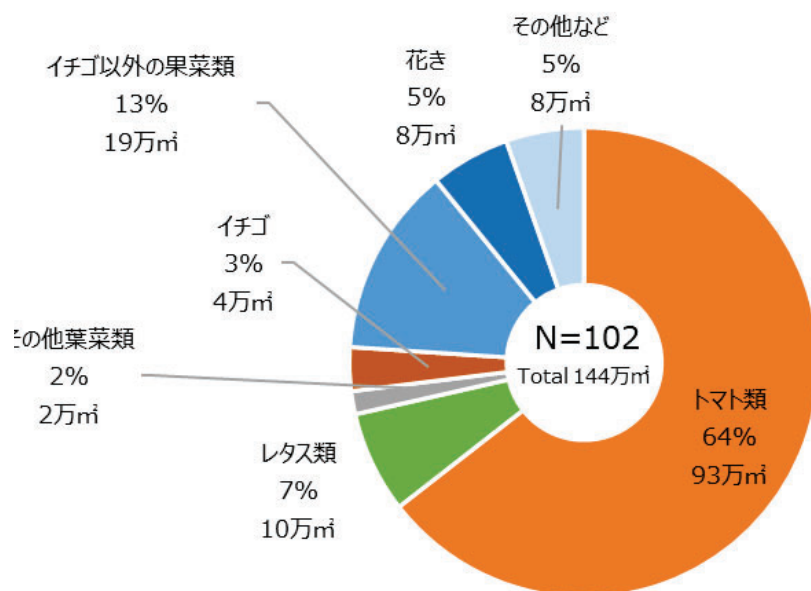
⑥ 栽培品目

各事業者における主要栽培品目を集計すると、太陽光利用合計（太陽光型および併用型）でトマト類が 60%であった。太陽光型については、トマト類の比率が 69%と最大で、次いでイチゴ以外の果菜類が 11%、イチゴが 7%、レタス類が 4%であった。一方で、併用型ではトマト類、花きがそれぞれ 27%、レタス類、イチゴがそれぞれ 13%とトマト類以外の品目の比率も大きい。

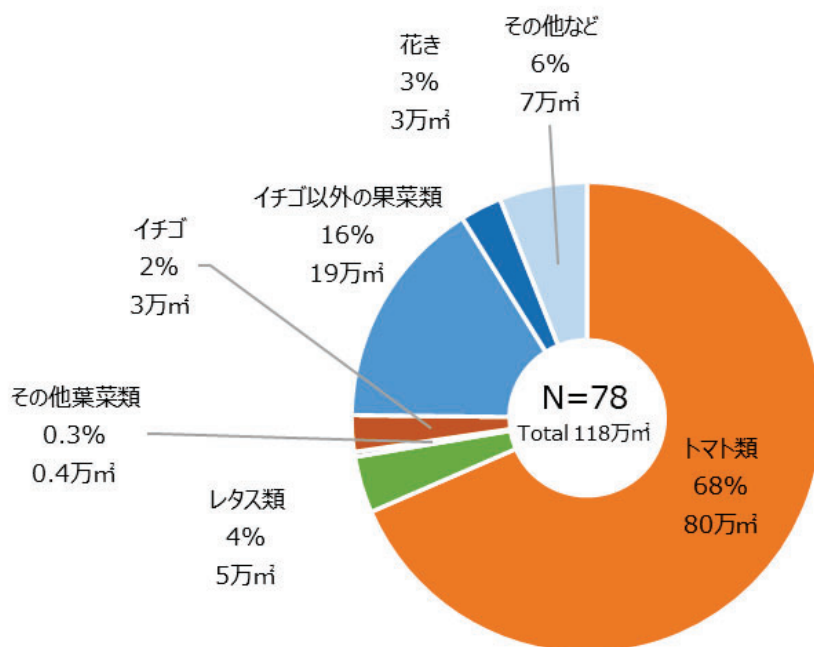


図表 44 主な栽培品目（太陽光型・併用型）

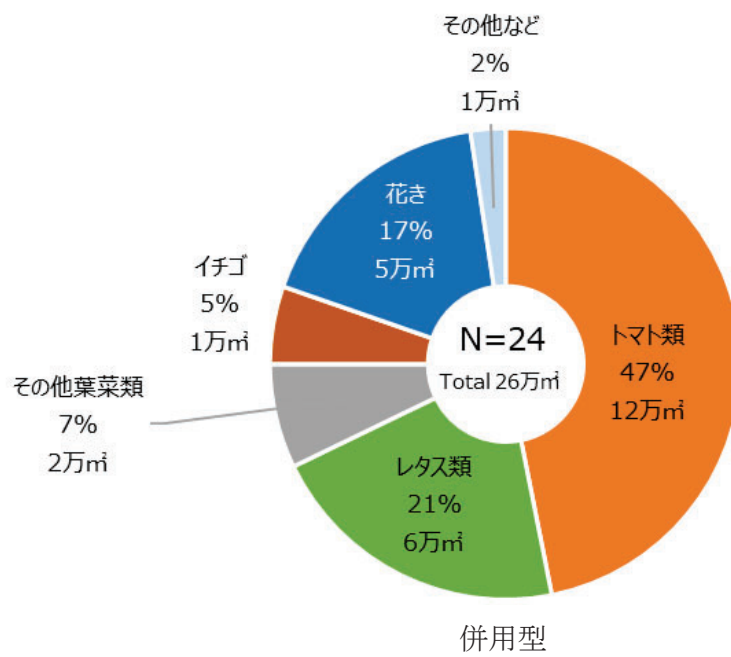
さらに、主な栽培品目に限定せず、各施設における栽培実面積別に栽培品目をみると、太陽光型および併用型ではトマト類が最も多いが、併用型では、レタス類（21%）や花き（17%）の比率も太陽光型と比較すると高い。



太陽光利用合計（太陽光型および併用型）

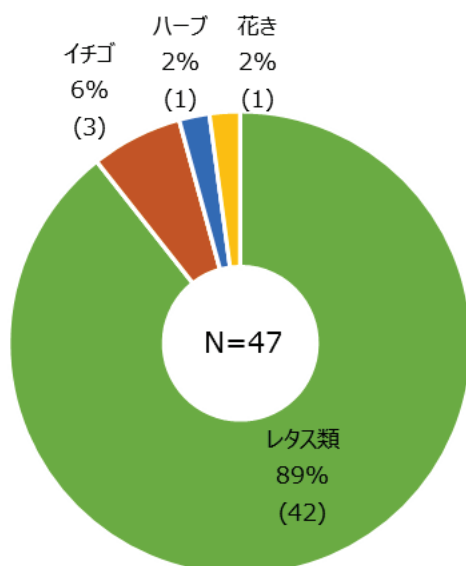


太陽光型

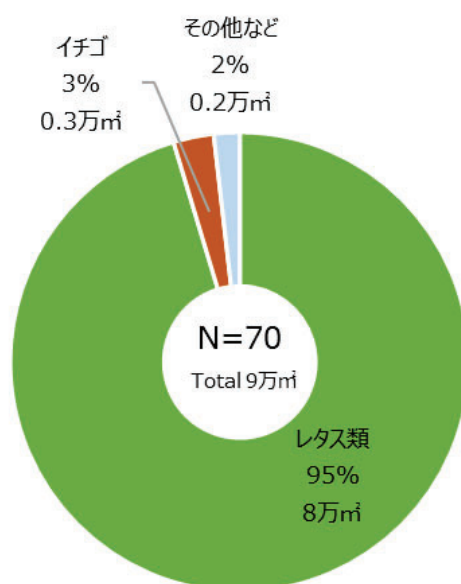


図表 45 総栽培実面積別栽培品目（太陽光型・併用型）

人工光型の主な栽培品目は、周年を通して安定した需要があり、果菜類に比べて光の要求量が少なく、比較的栽培のしやすいレタス類が 89%で最多となっている。主な栽培品目に限らず、各施設における栽培トレイ実面積別に栽培品目をみても、レタス類が 95%と最も多い。

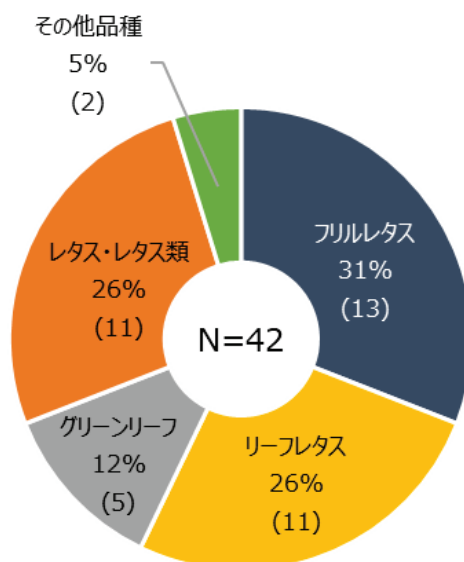


図表 46 主な栽培品目（人工光型）



図表 47 総栽培トレイ面積別栽培品目（人工光型）

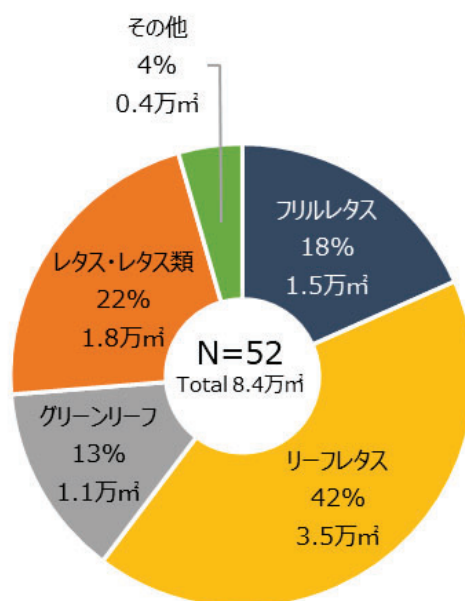
人工光型にてレタス類（ベビーリーフを除く）を主要品目として回答した事業者のうち、栽培品種について集計したところ、フリルレタス（31%）、リーフレタス（26%）、グリーンリーフ（12%）などが挙げられた。ただし、レタスやレタス類と回答した事業者も 26%を占め、それらの栽培品種については不明である。



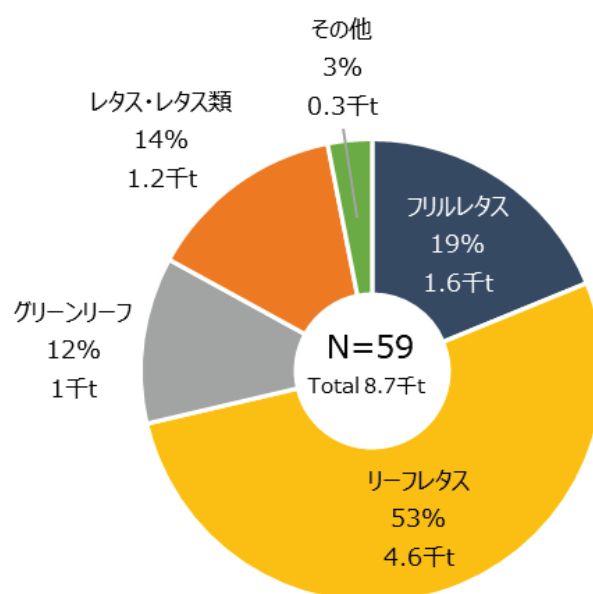
図表 48 主要品目の栽培品種
(人工光型・主要品目のレタス類（ベビーリーフを除く）)

さらに、主な栽培品目に限らず、人工光型にて各施設における栽培品目についても同様に、レタス類（ベビーリーフを除く）の回答について栽培品種別に栽培実面積を合算したところ、リーフレタスが42%で最も多く、ついでフリルレタス18%、グリーンリーフ13%となった。ただし、レタス・レタス類と回答した場合の品種は不明である。

なお、栽培品種別の年間生産量をみると、半数以上がリーフレタスとなっている。前述のリーフレタスの栽培実面積の比率に比べ、リーフレタスの年間生産量の比率が大きいが、回答者の栽培日数平均がフリルレタス（38.4日）やグリーンリーフ（42日）に比べ、リーフレタス（35.9日）は少ない。その他のレタス類も含めたレタス類（ベビーリーフを除く）全体の栽培日数平均は、38.6日である。



図表 49 栽培品種別栽培実面積（人工光型・レタス類（ベビーリーフを除く））



図表 50 栽培品種別年間生産量（人工光型・レタス類（ベビーリーフを除く））

※なお本調査における品目分類の内訳は以下の通りとしている。

カテゴリ	品目
トマト類	大玉トマト、中玉トマト、ミニトマト等
レタス類	リーフレタス（フリルレタス、グリーンリーフ、サニーレタス、グリーンウェーブ、ロメインレタス、バタビアレタス）、サラダ菜、サンチュ、ミックスリーフ、ベビーリーフ等。カットレタスを含む
レタス以外の葉菜類	ホウレンソウ、ケール、アイスプラント、スイスチャード、水菜、サラダ小松菜、ミツバ、ホワイトセロリ等
イチゴ	イチゴ
イチゴ以外の果菜類	キュウリ、パプリカ、ピーマン、スナップエンドウ
ハーブ	ルッコラ、クレソン、バジル、ヨモギ
スプラウト	カイワレ大根、豆苗、ブロッコリーの新芽
花き/エディブルフラワー	エディブルフラワー、バラ、トルコキキョウ、観葉植物、菊、カランコエ等
苗	野菜苗（大葉苗、トマト苗、ナス苗等）、花苗
その他	アスパラガス